



伏見 諭

東海大学

教育情報センター

講師

小規模組織のソフトウェアプロセス国際規格VSE

プロフィール

現場のソフトウェア開発に15年ほど、プロジェクトマネジメントに10年ほど従事
情報規格調査会SC7/WG24主査
JISA 技術委員会標準化部会部会長
VSE-JIS化WGリーダー

講演概要

ソフトウェアの開発は、いろいろな形態・規模で行われますが、現在でも小規模な開発の存在価値は薄れていません。先端的な小規模開発、Web等の迅速な小規模開発、分散した小規模開発とそれらの統合、組込みソフトにおける開発などいろいろな姿がありますが、そうした小規模開発の場でも当然、QCDの高水準達成は課題となります。

グローバル化経済の中で、国際的に、小規模開発ソフトウェアプロセス、その開発組織のQCD水準確保と、実態水準評価・保証・認証が必要との声が起こり、新たらしい国際規格ISO/IEC29110（略称VSE規格）群がプロセス・プロファイル規格として制定され、拡充されつつあります。JISAの技術委員会・標準化部会では、そうした動きに先駆的に取組みたいと考え、同規格のJIS(日本工業規格)化作業に取り組んできました。作業がほぼ完了し今秋のJISとしての公表予定の見通しとなっていますが、そうした状況のもと、次の概要での紹介を行います。

- (1) VSE規格の位置づけと目標
- (2) 規格の内容
- (3) 規格群の展開方向
- (4) JIS規格化の進展
- (5) 今後の展望
- (6) ソフトウェア開発組織、開発者はこれをどう生かせばよいか